

◆新しく家族に迎える準備

●どこから猫を入手するか

知人から、ペットショップやブリーダーなどの動物取扱業者から、動物保護施設からなどの方法があります。健康で社会性*のある猫を選びましょう。子猫から飼い始めると、成長を見られるという楽しみがある反面、病気になりやすく、食事や排泄などの世話が大変です。成猫は、大きさや性質がすでにわかっている、食事の世話などが子猫に比べて楽であるという利点があります。

※猫の社会化について

生後2～9週齢を社会化期といいます。この間に、親猫や兄弟猫などとの関係を通して猫としての大切なことを学んだり、人間や他の動物、様々な環境を経験したりすることで、社会性（相手や状況に応じた適切な行動をとる能力）を身に付けます。この時期に適切に社会化されないと、成猫になってから様々な問題行動を起こすことがあります。子猫から飼う場合には、この時期に親兄弟と過ごした猫を選ぶとともに、飼い始めてからも、いろいろな経験をさせて社会性を身に付けさせるようにしてください。

●必要な用具類

飼うために必要な用具類には、食器・水容器・寝床・トイレ・首輪・迷子札・ブラシ・遊び道具などがあります。様々なものが市販されていますが、猫の体格や好みに合った、安全なものを選びましょう。

寝床 猫は箱に入るのが大好きです。体がすっぽり入る程度の大きさのダンボール箱などにタオルなどを敷いてあげましょう。

トイレ トイレの数は、猫の頭数+1個が目安です。市販の猫用トイレに猫用砂を入れたものを用意します。猫用砂は水に流せるタイプなど、様々なものがあります。猫によって好みがあるので、いろいろなタイプを試してみてください。

迷子札とマイクロチップ 万一、迷子になっても、飼い主の元に戻れるように、連絡先を書いた迷子札や、マイクロチップを装着するように努めましょう。マイクロチップを装着した猫を購入した又は譲り受けた場合は、新しい飼い主の情報を変更登録してください。

●ご近所への配慮

飼い主にとっては気にならない鳴き声や毛なども、猫を飼っていない人には気になるものです。日ごろから良好な近所付き合いに努め、猫を飼う前にあいさつに行くなどのコミュニケーションも大切です。

●かかりつけの動物病院を探しましょう

猫の健康状態を確認するため、まず、動物病院で健康診断をしましょう。猫が病気にかからないようワクチン接種や不妊去勢手術をすることも大切です。猫が病気になったときに慌てないように、かかりつけの動物病院を決め、日ごろから相談しておくことも大切です。

◆正しい食事と水は健康の源

猫は本来肉食の動物です。昔ながらの「ごはんにおカカ」では栄養が不足してしまいますし、魚だけを長期間与えているとビタミン欠乏になってしまいます。

キャットフードを利用すれば栄養のバランスもよく、手間もかかりません。ドライタイプや缶詰など、猫の年齢に合わせて必要な栄養を配合したものが「総合栄養食」として市販されています。

キャットフードに書かれた量・回数を参考に、猫の体格を考慮して与えてください。

●注意すること

① 偏食をさせない

猫は幼い時に食べたものを一生食べ続ける傾向があります。好物だからといって、偏ったものだけを与えていると、栄養バランスが崩れてしまいます。子猫のときから、バランスのよい餌を与えましょう。

② 人の食べ物は与えない

猫には有害なため、タマネギ、ネギ類、生イカ、生魚は与えてはいけません。猫の食事に味付けは不要ですので、塩分や糖分は控えましょう。固い骨や大きな骨は取り除いてください。

③ 食べ残しはすぐに片付ける

「猫は一度に全部食べずに少しずつ食べるから」といつまでも食べ残しをそのままにしている人がいますが、これは誤りです。時間を決めて与え、残したときはすぐに片付けて間食をさせないようにすれば、残さずに全部食べるようになります。食べ残しをそのままにしておくと、不衛生だけでなく、傷んだものを食べて体調を崩す原因になりかねません。



●飲み水

いつでも新鮮な水が飲めるように、きれいな容器に入れておきましょう。

ぼうこう 猫の膀胱結石

猫はもともと砂漠の動物なので、水をあまり飲まない傾向があります。水分が不足すると尿が濃くなり、膀胱に結石ができることがあります。結石が尿道に詰まって尿が出なくなると、1日か2日で死んでしまうこともあります。日ごろから尿の回数や量に注意するとともに、餌も水分の多いものを与えるなどして予防してあげましょう。

◆お手入れは猫まかせにしない

●ブラッシング

猫は体をなめてきれいにする習性があるので、抜け毛を放っておくと、毛を飲み込んで吐き出したり、胃腸にたまって病気になったりすることがあります。定期的にブラッシングして抜け毛をとってあげましょう。また、長毛種の猫では、ブラッシングを怠ると、毛が絡まって玉になり、手がつけれなくなってしまいますので、こまめに手入れする必要があります。

●つめ切り

猫のつめは鋭く尖っていて、家具を傷つけたり、飼い主等の思わぬ怪我の原因になったりします。つめが伸びたら猫用のつめ切りで切ってあげましょう。

●入浴

ほとんどの汚れは、ブラッシングして蒸しタオルでふけば取れます。ひどく汚れた場合など入浴が必要なときは、猫用のシャンプーで手早く洗い、よく水気をふき取ってからドライヤーで十分に乾かしてあげましょう。猫は一度嫌な思いをすると、次からは断固として受け入れなくなることがあります。恐怖心を抱かせないように、やさしく洗ってあげましょう。

●ノミ対策

ノミは猫に寄生し、吸血することで、かゆみ、皮膚病を引き起こします。伝染病を媒介することも知られています。また、猫だけでなく人も刺されることがあります。背中にたらずタイプの薬をはじめ、様々なノミとり薬・シャンプーがありますので、獣医師に相談してください。また、ノミの卵や幼虫は、カーペットや部屋のすみのほこりの中にもいます。こまめに掃除機をかけるようにしてください。

お風呂嫌いにさせない三つのポイント

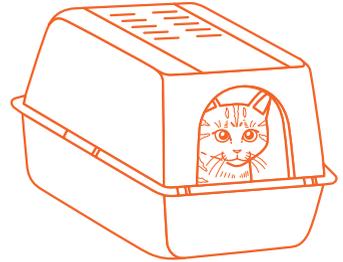


◆猫を飼うための環境を整えましょう

猫を飼うためには、猫との暮らしに適した環境を整える必要があります。猫が必要とするものや起こりうる問題をあらかじめ考えておき、猫も人もストレスなく過ごせるようにしましょう。

●トイレの準備

猫は決まった場所で排泄する習性があります。食事の後など、臭いをかいで回って場所を探している様子を見たら、すぐに用意したトイレに連れて行ってあげましょう。これを二三回繰り返すと、自分から行くようになります。どうしてもトイレ以外の場所で排泄する場合は、トイレの置き場所や大きさ、砂の種類、清潔さなどを見直してみてください。猫は汚れたトイレを嫌います。いつもきれいにしておきましょう。また、今まで猫用トイレで用を足せていたのに失敗するようになったときは、病気が原因となっていることも考えられます。



●つめとぎの用意

家具や柱でつめをとぐのは飼い主として困りものですが、これも猫の習性の一つです。しかりして無理にやめさせるのではなく、専用のつめとぎを用意してあげましょう。ダンボールやカーペット地など、猫によって好みがあります。飼い猫に合ったものをお気に入りの場所に置いてあげましょう。

●猫に入ってほしくない場所への対応

猫は高い所に登ったり、せまいすき間を通り抜けたりするのが得意です。大事なものがある場所や、猫にとって危険な物がある場所など、入ってほしくない場所には、物理的に猫が入れないようにしておくといよいでしょう。ケージがあれば、来客の対応や調理のときなどに、一時的に猫を避難させることができます。

【人につめをたてたり強く咬んだりするとき】

つめをたてられたり強く咬まれたりしたときには、人も驚いてしまいますが、怒鳴ったり叩いたりすると、猫との信頼関係が壊れてしまいます。絶対にやめてください。猫をしかっても、しつけにはなりません。猫をよく観察して、原因を探しましょう。

じゃれていて興奮してしまう場合は、人間の手足で遊ぶ癖がつかないように、猫じゃらしや一人遊びでクールダウンさせましょう。なでられるのが苦手な猫の場合、意思表示として咬むこともあるので、しつこくかまはずないようにしましょう。また、猫が突然攻撃するようになった場合、病気が原因のおそれもあります。

◆ 普段の健康管理が大切

猫も人と同じように感染症にかかったり、お腹をこわしたり、腫瘍しゅようができたりと
いろいろな病気になります。病気を早期に発見するには、常に猫の様子、食欲、便や尿
の状態などに注意することが重要です。猫は自分から病院に行くことはできません。
様子がおかしいときは、早めに獣医師に相談してください。感染症を予防するワクチン
もあります。病気になってから慌てないよう、あらかじめかかりつけの動物病院を
決めておき、健康診断やワクチン接種などを行い、日ごろからの予防を心掛けましょう。

外飼いや、外に自由に行き来できる飼い方では、他の猫から感染症を
うつされる機会が増すだけでなく、便や尿の回数や状態が分からず、病気
の兆候を見逃すことが多くなります。猫の健康を守るためにも、室内飼
いをしましょう。

タバコの副流煙は人だけでなく一緒に暮らす猫にも悪影響を与えるおそれ
があります。受動喫煙の害に気を付けてください。消臭剤、殺虫剤などの
化学薬品にも注意して、猫の近くで使用することは控えましょう。

猫の主な病気

●腸管内寄生虫症（回虫、糸虫、コクシジウムなど）

これらは猫の腸内の寄生虫です。下痢や食欲不振などが主な症状ですが、放置する
と死亡することもあります。人に感染するものもあるため、定期的に検便をしてきち
んと治療しましょう。

●猫伝染性腸炎（猫汎白血球減少症・パルボウイルス感染症）

感染力と病原性が強い猫の感染症です。おう吐を伴う下痢が主な症状で、子猫は死
亡することもあるため、適切な治療を必要とします。ワクチンで予防できますが、子
猫は適切な時期に接種する必要があるため、獣医師にご相談ください。

●猫ウイルス性鼻気管炎

猫のかぜと言われ、鼻水、なみだ、よだれなどが主な症状です。感染力も強く、放
置すると全身が衰弱して死亡することもあります。予防ワクチンが普及してしま
すが、これらの症状がみられた場合は早めに獣医師にご相談ください。

●猫後天性免疫不全症候群（ネコエイズ）

人に感染することはありませんが、人と同様に、発症すると猫の免疫力が低下しま
す。そのため、軽い病気でも治らず症状が悪化し、死亡する場合があります。屋外に
出さないなど、感染猫と接触させないことが最善の予防法となります。

◆人と動物との共通感染症って知ってる？

同じ病原体で、動物から人へ、人から動物へうつる病気があります。人畜共通感染症、動物由来感染症ともいいます。猫から人にうつる病気には次のようなものがあります。

●回虫幼虫移行症

猫回虫の卵が人の口に入り、幼虫が肺や眼、脳などに迷い込んだ症例が世界で数例報告されています。砂場などで猫が排泄せつしていることもあるので、外で遊んだ後は手をよく洗いましょう。

●皮膚糸状菌症、かいせん症

猫の皮膚病の原因はいろいろありますが、糸状菌（カビの仲間）やかいせん（ダニの一種）によるものは、人にもうつることがあります。猫に脱毛や皮膚の異常があったら、早めに獣医師に相談してください。

●猫ひっかき病

猫に咬かまれたり、引っかかれたりすることにより感染します。人が感染すると、できた傷口に近いリンパ節のはれが続き、発熱などの全身症状があらわれることもあります。猫のつめをこまめに切り、引っかき傷、咬かみ傷を受けないようにしましょう。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

ウイルスを保有しているマダニに咬かまれることにより感染します。また、ウイルスに感染した猫に咬かまれて発症した事例も報告されています。人での主な症状は発熱と消化器症状（おう吐、下痢など）です。SFTSの感染源となるマダニは通常、家の中にはいません。万が一、猫の体表にマダニが食い込んでいた場合は無理に取ろうとせず、動物病院を受診しましょう。

猫と人に共通の感染症は他にもありますが、

- ① 口うつしで食べ物を与えるなど、濃厚な接触をしない。
- ② 猫の体や生活環境を清潔にする。
- ③ ふん、尿は早めに処理し、排泄物せつを扱った後はよく手を洗う。
- ④ 日ごろから猫の健康状態に注意し、様子がおかしいときは早めに獣医師に相談する。

などのことを守り、衛生的な飼い方を心掛けていれば必要以上に恐れることはありません。日ごろから飼い主自身や家族の健康状態に注意し、異常があれば医師の診察を受けてください。